教科等研究会（小学校道徳部会）
令和４年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるための
多様な指導方法と評価の工夫

２　研究経過

第１回			第２回		
期日 ６月１６日	人数 ２６名	場所 龍野小学校	期日 １１月８日	場所 龍野小学校	授業者 中村　智奈教諭 甲斐なつき教諭 岩永　光央教諭

第３回		
期日 １月３０日	場所 広安小学校	授業者 右田さくら教諭

３　研究の概要

(1) 研究の内容

小学校新学習指導要領における道徳科の目標から、児童一人一人が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、道徳性を養っていけるような道徳科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道徳的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる」「楽しい」道徳の授業につながると考えた。

◎**「分かる」道徳の授業**とは・・

『価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業』

＝道徳的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道徳的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道徳的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎**「楽しい」道徳の授業**とは・・

『子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業』

＝道徳的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説特別の教科　道徳編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫し生かすようにした。

◇道徳の時間に生かす７つの指導方法の工夫

① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペープサート等）、ビデオ映像等
② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
③ 話合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容等

(2) 成果と課題

【成果】

○　今年度も、事前研での教材分析や授業展開の検討を積極的に行い、部会員で協力して、学習構想案を練り上げることができた。

○　導入や発問構成の工夫、アンケートの活用を行うことで、児童主体の授業づくりについて研究を深めることができた。

○　龍野小学校の研究発表会に参加させていただき、提案授業や講話を通して、「主体的に考え、共に学び合う授業づくり」や「令和のこれからに生きる道徳教育と授業の在り方」について学ぶことができた。

【課題】

○　今後さらに、めあての立て方や発問を工夫し、児童主体の授業づくりを研究していきたい。

4　実践事例

(1) 授業の概要

主題名　だめと分かっていても（A（３）節度，節制）
教材名　「どんどん橋のできごと」　出典「生きる力３」（日本文教出版）
指導者　教諭　右田　さくら
本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

・導入では、教材文を読む前に挿絵を見せて主人公の表情に着目させることで、教材の理解を深め、学習課題につなげる。
・葛藤場面でハート図（タブレット）を活用することで、主人公の思いを多面的・多角的に考えることができるようにし、児童が互いの考えを伝え合う手立てとする。
・ボロボロのかさを見つめる主人公の気持ちを中心発問で問い、展開後段では、後悔しないようにするためにはどんな考えや気持ちが必要かを考えることで、道徳的価値をより高めることができるようにする。
・終末で、アンケートを提示し、「今までの自分」「今日の学習で」「これからは」の３つの視点を提示することで、児童が主体的に自己を見つめることができるようにする。

(2) 学習構想案

第３学年２組　道徳科　学習構想案

日　時　令和５年１月３０日（月）第５校時
場　所　３年２組教室

1　主題についての構想

主題名	だめと分かっていても （ 内容項目A(3)節度，節制 ）	
ねらいと教材	(1)ねらい 自分の心の中にある弱さと重ねて考えながら，ぼくの葛藤や後悔について話し合うことを通して，節度・節制を心掛けた生活を送ろうとする実践意欲を高める。 (2)教材名 どんどん橋のできごと 出典:「生きる力(日本文教出版)」	
評価の視点	評価の視点１	評価の視点２
	主人公の葛藤について，節度・節制という点から多面的・多角的に考えようとしている。	自分の中にある弱さについて振り返り，これまでの自身の言動と重ね合わせながら，節度・節制について考えようとしている。
目指す児童の姿		
自分の心の中にある弱さを認め，節度・節制を心掛けた生活を送ろうとする児童		
主題に迫る学習課題（本時）		本主題で働かせる見方・考え方
周りに流されず，正しい行動をするためには，どんな考えが大切だろうか。		節度・節制について多面的・多角的に考え，自分との関わりで考えながら，自己の生き方についての考えを深めていくこと。

内容項目相互の関連的・発展的な指導，各教科等や体験活動等との関連的指導

特別活動（学級活動）	道　徳　科	総合的な学習の時間
「学級会を開こう」 ○ 学級の課題である，ろう下歩行について，どのようにすれば解決できるか話し合い，今後の生活に生かす。 **「交通安全教室」** ○ 登下校などで普段通る危ない場所を知り，交通ルールを守った安全な行動を考える。 **「学級の課題について考えよう」** ○ 学級の課題である，チャイム着席について，どのようにすれば解決できるか話し合い，今後の生活に生かす。	**「ぼくを動かすコントローラー」** **A(3)節度，節制** **「どんどん橋のできごと」(本時)** **A(3)節度，節制** 主題名　よく考えて 自分の心の中にある弱さと重ねて考えながら，ぼくの葛藤や後悔について話し合うことを通して，節度・節制を心掛けた生活を送ろうとする実践意欲を高める。 **「ダブルブッキング」)** **A(1)善悪の判断・自律・自由と責任**	**「防災」** ○ 熊本地震の震災の実際や防災の意義を知り，自分たちにできる防災について考える。 **「タブレットの使い方を知ろう」** ○ 情報の利便性や危険性を理解し，タブレットの正しい使い方について考える。

2　主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）

本主題は，第3学年及び第4学年の内容項目 A(3)「自分でできることは自分でやり，安全に気を付け，よく考えて行動し，節度のある生活をすること」を基にしたものである。

人との関わりの中で生活していると，その人間関係の中で自分の行動が変化してくることは，誰しもある。その関係が近いほど，「自分だけは外れたくない」「友達によく思われたい」という気持ちや，その場の雰囲気が盛り上がって，一人ではしないようなこともやってみようという気になることはよくある。しかし，「本当はよくないと分かっていたのに」という思いを抱えていたり，結果として自分や他人によくないことになったり，規範を乱すことになったりする場合も少なくない。また，そのことによって，後悔したり，気分が晴れない状態になったりしてしまう。そうならずに，毎日を明るく過ごすためには，自分の中にある弱さに気付き，それを乗り越えて，正しい判断のもとに行動をすることが大切である。

本主題における系統

小学校第1学年及び第2学年
内容項目A(3)(節度，節制)
健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をすること。
教材名「どうしてないてるの」
主題名「物やお金を大切に」

小学校第3学年及び第4学年
内容項目A(3)(節度，節制)
自分でできることは自分でやり，安全に気を付け，よく考えて行動し，節度ある生活をすること。
教材名「どんどん橋のできごと」
主題名「よく考えて」

小学校第5学年及び第6学年
内容項目A(3)(節度，節制)
安全に気を付けることや，生活習慣の大切さについて理解し，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛けること。
教材名「ながらって・・・・・・」
主題名「周りの人とも安全に」

児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）

本学級の児童数(35名)

■主題に関する意識の状況

(1)だめだと分かっていてもしてしまうことはありますか？
「ある」…3人　「ときどきある」…16人　「あまりない」…10人　「ぜんぜんない」…3人

(2)(1)で「ある」「ときどきある」と回答した人に聞きます。どんなことをしてしまいますか。(自由記述)
・外に早く行きたい時に，廊下や教室内を走ってしまう。
・同じ登校班ではない人と登校すること。

■考察

本学級の児童は集団意識が芽生え始め，友達の輪も広がってきている。休み時間にはたくさんの友達と鬼ごっこやドッヂボール等で仲良く集団で遊ぶ姿や，運動会や学習発表会などの行事では皆で心を一つにして力を合わせて取り組もうと頑張る姿が見られた。一方で，友達がしているからといって目先の面白さに惹かれて深く考えずに行動し後悔したり，ダメなことだと分かっていても集団の中の雰囲気に流されて，一人のときはしないはずのことでも，仲間がいると度を越し，周りにいる人に迷惑をかけてしまったりする場合もある。

そこで本時では，誰しも周りに流されて，してはいけないことをしてしまう弱さがあることを知り，それでも楽しさやその場の雰囲気に流されることなく，正しい判断のもとに行動する大切さを理解すると共に，どうすれば心のブレーキをかけることができるのかについても考えられるようにしたい。

教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）

教材「どんどん橋のできごと」は，学校の帰り道に，友達に誘われて川に流した傘が壊れてしまい，自分の行動を後悔するお話である。迷う気持ちの中で，何が正しいのか分かっていたにも関わらず，面白さや周囲の友達の言動に流されてしまう「ぼく」の後悔する気持ちを考えることを通して，誰しも自分の中の弱さがあることに気付き，それを乗り越えて，正しい判断のもとに行動することの大切さについて，実感を伴って考えることのできる教材である。

本教材を活用した授業においては，登場人物の葛藤や後悔を考えることを通して，児童の多様な価値観を引き出しながら，節制の意義等について考えるとともに，節度・節制を心掛けた生活を送ろうとする児童を育てていきたい。

3　指導に当たっての留意点

【導入・終末の工夫】(学習過程の工夫)

○授業の導入場面で学校の帰り道に寄り道をした経験を尋ねることで，教材の主人公と重ねやすくする。また，担任の経験も話すことで，誰にでもあるうるという雰囲気をつくり，教材を自分事として捉えやすくする。

○授業の終末でアンケートの内容を提示することで，自身の経験と重ねて振り返らせ，今後の自分の生き方につなげられるようにしたい。

○振り返りでは，「今までの自分」「今日の学習で」「これからは」の3つの視点を与えることで，自分のことや本時の学びを振り返りやすくする。

【発問の工夫】(指導方法の工夫)

○紙芝居を用いながら教材を提示することで，登場人物の関係性や主人公の置かれた状況を理解しやすくする。

○教材を読んだ後に感想を尋ねることで，児童の思いや考えをもとに課題をつくり，児童が本時の主題に関わる問題意識をもてるようにしたい。その上で教材に出会わせていきたい。

○教材の葛藤場面で，主人公の思いを多面的・多角的に考えたり，説明したりできるよう，ハート図(タブレット)を用いる。全体で発表させる際にはテレビで写すことで，友達の考えた理由とともに気持ちの大きさを理解させたい。

○主人公がボロボロのかさを見つめている場面を中心発問にすることで，後悔している気持ちを引き出したい。また，後悔しな いようにするためにはどんな考えや気持ちが大切か，児童の考えを高める発問を行い，周りに流されず，自分でよく考え行動にうつすことが大切であることに気付かせたい。

４　本時の学習

（１）ねらい

自分の心の中にある弱さと重ねて考えながら，ぼくの葛藤や後悔について話し合うことを通して，節度・節制を心掛けた生活を送ろうとする実践意欲を高める。

（２）展開

過程	時間	学習活動 （◇予想される児童の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図，内容，方法等）
導入	３分	**１　本時の学習課題を知る。** ①　挿絵の登場人物の表情の変化から，お話の内容を想像し，本時の学習課題を知る。	○登場人物の表情に着目させることで，教材の理解を深め，学習課題につなげる。
展開	32分	**２　教材を読み，道徳的価値について考える。** ・紙芝居で教材を読み，関係性や発言を整理する。 ①　迷っているぼくは，どんなことを考えているのだろう。 【入れる】 ◇みんなもやっているし、大丈夫。 ◇面白そうだし、やってみようかな。 ◇勇気がないと思われたくない。 ◇しなかったら仲間はずれにされるかも。 【入れない】 ◇ぼくのは丈夫でも入れたくない。 ◇正くんはしないって言ったから。 ◇大事なかさだからこわしたくない。 ◇あぶないことだから、みんながやっていてもしたらだめだ。 **②　ボロボロのカサを見つめているぼくは，どんなことを考えているのだろう。** ◇怒られたらどうしよう… ◇何でぼくのだけ壊れたんだろう。 ◇こんなことしなければよかった… ◇だめだと分かっていたのにしてしまった。 ◇大事なかさなのに… ◇友達の言うことを聞いてしまった。 ③　後悔しないためには，どんな考えが大切だろう。 ◇何が正しいかを考えて行動することが大切。 ◇周りに流されず自分で考えることが大切。 ◇時にはがまんも必要。	○教材を読んだ感想を尋ね，本時で学習する課題を抑える。 ○「入れる」「入れない」の気持ちの大きさや理由について考えたり説明したりしやすくするために，タブレットのハート図を用いる。 ○タブレットのハート図で示した気持ちの大きさや理由を，ペアで話させることで，ぼくの葛藤について実感をもって捉えさせる。 ○その際の理由を尋ねることで，目先の楽しさや周りの友達の言動によって行動を決めるぼくの姿や，周りに流されずに行動しようとするぼくの気持ちなど，多面的多角的な考えを引き出す。 ○全体の場で発表する際には，ハート図をテレビに写し，理由とともに照らし合わせる。 **（個別の支援）** ○迷いながらもしてしまった時のぼくの思いを板書から捉えさせ，「カサが壊れてどんな気持ちか」を問うことで，児童の考えを引き出す。 ○自分の考えをもつことが難しい児童には、板書から，「どの考えが一番自分の考えに近いか」を考えさせる。 ○様々な意見が出された後に，「怒られなければしていいのか」や「この中でどの考えが一番気持ちがよいか」を問い返す。 ○ボロボロのかさを見つめているぼくや夕ご飯がおいしく食べられなかったぼくの姿から，主人公が自分の行動を後悔している様子を捉えさせ，後悔しない生き方について考えを深めさせる。
終末	10分	**３　自分自身を振り返る。** ①　自分の経験を振り返り，今後の生き方を考える。 ◇今までは，自分も主人公のぼくと同じように，してはいけないことをして後悔したことがある。これからは，する前に何が正しいか考えて行動したい。	○アンケートの内容を提示し，自分にも同じような経験がなかったか想起させる。 ○「今までの自分」「今日の学習で学んだこと」「これからの自分」の３つの視点を与え、学習をふり返らせる。

【評価の視点１】これまでの自身の言動と重ね合わせながら，節度･節制について考えようとしている。
（方法：発言・ワークシート）

【評価の視点２】主人公の葛藤について，節度･節制という点から多面的･多角的に考えようとしている。
（方法：発言・ワークシート）